

最前線レポート

発行所
大洋基礎工業株
たいよう新聞委員会

声援

全国の支店、営業所、出張所の職員並びに協力業者の皆様、お疲れ様です。この原稿が掲載される頃には、暑さも少し気候になつていいかと思います。

例年一月になるとインフルエンザにかかる人が増えてくるそうです。二〇二〇年に始まつた新型コロナウイルス感染症拡大に伴いこの三年間は、飛沫感染対策（マスクの着用、室内的換気、アルコール消毒等）を徹底して行つていたためインフルエンザにかかる人が、かなり少

懸念されています。大容量送水管を整備する事により、地震発生時に大容量送水管に貯留した水道水を使用し、地震発生直後から地域の身近な場所で応急給水が可能となります。

本現場は、東濃地方でも岩盤が硬いと知られている一級河川土岐川沿いでの推進工事です。推進管路の土質構成は、発進立坑から八五m付近までは最大一軸圧縮強度八Mpaの泥岩、八五mから一八〇m付近（九五m）までは最大一軸圧縮強度一八五Mpaの花崗岩、一八〇mから到達立坑までの四三九・八m（二五九・八m間）が最大一軸圧縮強度一七六Mpaの礫岩になります。今回の掘進機の面板（ビット）の選定では、発進立坑から泥岩層が続くので切削ビット型が望ましいが、後の硬質な岩盤層に遭遇した時は、切削ビットでは施工不能になってしましました。しかし、懸念事項と

して土質変化点で強度が全く違う花崗岩に入つて行く時に掘進機が花崗岩に乗り上げて精度不良を発生させる恐れがありました。この変化点を事前に把握するために、現場で行つた対策は当社名古屋支店調査部に推進管路の土質採取と岩盤変化点が分かる土質縦断図の作成を依頼しました。

が続きました。その結果、計画日進量に届いておりませんでした。その後、土質変化点手前付近から掘進速度を低下させて慎重に花崗岩へ掘進を行い、懸念していいた精度不良の発生も起きました。調査部が作成した土質縦断図の通り花崗岩に遭遇した事は、私も含めて発注者様・元請け様・協力会社の全員がその精度の高さに驚きました。しかしこれが機械のローリング対応に大変苦労をしました。精度確保は、一トータルステーションを交互に配置し、合計九台の測量器具を使用して管内トラバース測量を行いました。狭い機内での交換や気内での作業は、私も今回初めて経験し、とても過酷な作業環

と言ふと先日私事では、ありません。そのたまにインフルエンザの免疫を持つ人が少なくまた、コロナウイルス自体が感染法上「五類」に移行したため、例年のように徹底した感染対策をしなくなり、人々の感染対策への意識が薄れると予想されています。そのため今年の冬は、コロナウイルスやインフルエンザが流行する確率がかなり高いと先日メディアで取り上げられていました。

コロナウイルスやインフルエンザの予防として、手洗いとうがい、規則正しい食事や睡眠等が効果的あるといわれています。なぜこのような事を書いたか

が三日程続き、喉の痛みが五日程収まりませんでした。今後は、コロナウイルスとインフルエンザを同時に感染する人が増えるそうです。同時に感染する人混みの中ではマスクの着用等が効果的あるといわれています。

私のコロナウイルスにかかる時の症状は、三九度以上の熱

かけてしまい申し訳なく思っています。その間色々な方に負担をかけてしまつた申し訳なく思つて

ます。また感染した方も想像以上につらい思いをすることがあります。職種業務は、違います。職種業務は、違う方等、色々な職種や業務があります。職種業務は、違う方等、色々な職種や業務があります。

あります。

